

【開催概要】

- 日 時：平成30年6月23日（土）13：00～16：00
- 場 所：TKP札幌ビジネスセンター カンファレンスルーム5B
（札幌市中央区北3条西3丁目1-44 ヒューリック札幌ビル5階）
- 参加者：無作為抽出による市民 22名（年齢、性別、居住区をバランス良く抽出）
審議会委員 2名（愛甲会長、竹澤委員）
事務局 札幌市建設局みどりの推進部 4名
株式会社KITABA 8名

札幌のみどりについて情報提供



ワークショップ開催の背景と目的について説明したのち、札幌のみどりづくりの歩み、札幌のみどりの現状と課題について説明を行った。

話し合いのテーマとなる「自然・環境のみどり」「都市・まちのみどり」「みどりを楽しむ人」については、市民アンケートの結果なども交えながら、札幌のみどりの現状を深く掘り下げて情報提供した。

3つのグループに分かれて意見交換



STEP1の話し合いは、3つのテーブルに分かれて、「自然・環境のみどり」「都市・まちのみどり」「みどりを楽しむ人」のテーマごとにその現状について、プラスのイメージか、マイナスのイメージかを評価し、シール投票によりイメージの可視化を行った。

続いて、その理由を問いながら、みどりによって助かっていること、為になっていることについて意見交換を行った。

グループの意見を全体で共有



STEP2の話し合いは、各テーブルでの意見交換を参考にしながら、テーマごとの将来像について意見交換を行った。他のテーブルで話し合われた内容を踏まえながら、各テーマのみどりの将来像がどのような姿になってほしいか、またそれによりどのような新たな価値が生まれるのか、について意見交換し、将来像についてのまとめを行った。

自然・環境のみどり

マイナスイメージ

- まちなかのみどりが少なく、農地など、どんどんみどりが減っていて、みどりを感じにくい都市構造になっている。
- 地域によってみどりの量の偏りがある。
- 自然災害や野生生物（カラス、熊など）などとの共生が難しい。
- 外来種などが存在する。
- 人によっては、花粉症などのアレルギーが発症する時期があり、暮らしにくい時もある。

プラスイメージ

- 山などみどりのある景色がきれいで、札幌に戻るとみどりの良さを感じる。
- 紅葉など、四季を感じる。
- まちなかや身近に自然やみどりがある。
- 木陰ができるみどりがある。
- 郊外公園などみどりが多く、南区のラベンダー畑、円山公園、手稲山、西野などはみどが多い。
- 藻岩山など、古来の在来種が存在する一方で外来種もある。

助かっていること、為になっていること

- 身近に自然があることで札幌らしさを感じる。
- 円山公園などは、子どもや生涯学習などの教育の場やツールになる。
- みどりは動物の生息地になっていて、身近に感じることができる。
- みどりは食物連鎖のベースとなり、生き物や人間の基盤になっている。
- 冬の美しい景色をつくることにつながっている。
- 二酸化炭素削減、大気の浄化につながる。
- みどりは目の保養（札幌はまだ足りない）にもなり、虫の声などは癒やされ、健康になる。
- みどりは食にもつながる。

将来像

- ・四季の変化や在来種が札幌らしさを生むみどりの保全と活用をすすめる。
- ・子どもから高齢者まで多世代が学べる場にする。
- ・市民の視点、観光客の視点で守り育てる自然・環境のみどり

- 住宅地に住民が主体に花植えやみどりづくりが出来る公園を。
- きれいな河川、川のみどりづくりの見直しを。
- 都市部の新築ビルなどは緑化を進める基準を上げ、札幌らしさを生み出し、観光にもつなげる。
- 減っている農地を活かすため、個人の農地を保存して市民農園などに活用する。
- 都会でありながら自然に近いので観光に来た人や子ども達の教育に活かし、環境の良い都市を目指す。
- 在来種の花や樹木で札幌らしさを生み、ボランティア活動への参加などを通して子どもに教育する。
- 地名の由来までの教育をする。（例「発寒」など）
- ガーデニング技術など、みどりづくりに関する幅広い教育の場と、広報の充実を図る。
- 便利さだけではなく、不便な自然も受け入れるような市民意識が芽生えたら良い。
- 観光で見てもらうだけでなく、住んでいる人が気持ち良くなるようにする。
- 様々な人がみどりに触れる場（ボランティアなど）をつくることで癒しの効果を期待したい。
- 街路樹などの適正な樹種選定で、人との共生（植物アレルギー対応）、適性な管理（引き算の管理）をする。
- カラスやクマやシカ、虫とも仲良く暮らす。

大切だと考える新たな価値

- 自然と人の共生
- みどりは目の保養、癒やされ、健康になる
- 憩いの場、集いの場
- みどりは食にもつながる
- 生物多様性のスペース
- 札幌らしさを観光にもつなげる

都市・まちのみどり



マイナスイメージ

- 都心部のみどりが少なく、心がさびれてしまう。
- 民間施設の緑化など、都市とみどりの共存が必要。
- 住宅のみどりが減っている。
- 庭やベランダにみどりを増やす情報発信を。
- 都心の樹木のバランスが悪い。
- 倒木の危険があるなど、街路樹や民地のみどりの維持管理が行き届いていない。(強剪定含む)
- 風格のある並木がなく、街路樹の適切な樹種選定と管理(苦情に対応した強剪定など)が必要。
- 「観光都市」として、花あふれるまちにするべき。
- 老朽化した公園施設の管理など、子どもが遊ぶ場の充実を。
- 公園の災害時の機能を高める必要がある。
- 河川敷利用のルールやマナー(ゴミ捨て等)の徹底。
- 居住者と来訪者の視点で、都市・まちのみどりを考え、札幌のまちのイメージ向上を。

プラスイメージ

- まちなかに大きな芝生、大通公園などのみどりがあり、身近に花やみどりが感じられる。
- 大通公園の花がきれい。
- 大通公園は大きい木があり、市民でも観光気分を楽しめる。道外の来訪者など、他人に教えたいところがある。
- JRタワーなどから見えるみどりの景色がきれい。
- 住宅地の植樹帯にラベンダーなど植えるなど個人のみどり・花づくりがある。
- 玄関先や家の周りなどに花を植えているため、身近なみどりがきれい。
- 居住地など、暮らしと自然が近く、中島公園など自然に触れられる公園がまちなかや身近にあるのが良い。
- 夏場の木陰をつくる街路樹が多くて良い。もっとあっても良い。

助かっていること、為になっていること

- 子供からお年寄りまで多世代の活動の場になる。
- 公園などは子育て世帯に安心をもたらす、小さな子どもを安心して遊ばせる場となっている。
- 人が集う場になり、にぎやかさが、コミュニティ形成の機会になっている。
- 自分の気持ちが変わり、人の心が和み、写真を撮っていて楽しい。
- 札幌のみどりをPRすることが観光振興につながる。
- 都市・まちのみどりが観光につながる。
- 街路樹は健康・心理面に効果を発揮し、楽しめる。
- 公園でのBBQなど、みどりを楽しむことにつながる公園活用を。

将来像

- ・市民だけでなく、外部の人に自慢できる季節を楽しめるみどりがあるまち
- ・身近に触れられ、心を豊かにするみどりがあるまち

- 身近なみどりや彩りがきれいな花は、心を癒やし、楽しめる。
- 季節を楽しめるイベントが開催できるみどりの増やし方をして、外部の人にも見てもらえる場づくりを。
- 桜を楽しめるみどりづくり、賑わいを生むみどりづくりが必要である。
- 少子高齢化に対応した、狭小公園の見直し、高齢者の公園運営への参加を促す取り組みを。
- 他の人に自慢できる都市づくり、みどりを増やして、外から札幌に来た人にも良いと思ってもらえる都市づくりを。
- ビルなどの緑化を強化し、みどりと共存した街を目指す。
- 快適な都市空間づくりや歩行環境の改善に向けて、マンションとみどりの共存や、自転車走行のマナー改善が必要。
- 街路樹を維持するための制度や支援金を確立し、民間の管理参画など、管理が行き届く仕組みづくりを。

大切だと考える新たな価値

- 市民とともに管理できる体制づくりが必要である
- 小さな公園を活用することで、地域の人が活用できる場やコミュニティ形成の場となる
- 心を豊かにするみどり
- 都市・まちのみどりが観光に
- 癒し、楽しめる
- 自分の気持ちが嬉しくなり、人の心が和む
- 街路樹は心理面に効果を発揮

みどりを楽しむ人



マイナスイメージ

- みどりを楽しむ場やボランティアに参加する機会が少ない。
- 情報告知は十分ではないため、もっと拡大して理解が深まると良い。
- ボランティア情報のポータルサイト等、個人的にみどりを増やすきっかけとなる情報があると良い。
- 様々な人の協力や支援、活動する人によって支えられていることがもっと知られると良い。
- 学校以外でのボランティア活動への参加の仕方がわからない。企業単位で活動してはどうか。
- 小学校教育で自然を育む心の教育が不足。
- 関心の低い人が参加したいと思うメリッとの創造と、多様な世代の参加を促す場づくりを。
- 多くの人が活動できるサポートが必要。
- 多様な立場に合わせた参加の仕組みと方法を。

プラスイメージ

- みどりに関わる場や機会(町内会への花苗提供など)がある。
- 大通公園が子どもたちの遊び場になっている。
- 公園や河川敷が多世代の活動の場になっている。
- 原生林や植物のある空間が健康づくりの場になっている。
- 大通公園のピアガーデンやフラワーカーペットなど、みどりに関連するイベントや季節に応じたイベントがあり、イベントが良い印象を与えている。
- 近隣住民による、サイクリングロードの手入れがみどりとみどり、人と人をつないでいる。
- 子どもの頃のみどりに関わる場が、大人になってもみどりに触れ合う意識形成につながっている。
- 子どもや高齢者が一緒にみどりを楽しめる場と、そのために大事な取り組みをすべきである。
- 今回のような、市民を巻き込んだ取り組み、市民が考え意見交換する場があることが良い。

助かっていること、為になっていること

- 山菜等は食につながり、自給自足の生活が可能に。
- みどりを楽しむことが没頭できる時間、趣味となる。
- みどりを楽しむことは、心を整え、やすらぎとなり、健康になり、人の心を和ませている。
- 河川沿いの緑地などは、市民の憩いの場、集いの場になっている。
- みどりを楽しむことは、子どもの気づきにつながり、教育の場になる。
- 小さい頃からみどりに関わることで大人になってもつながっていく。
- 区ごとに植えている花の種類が違っていることが楽しむ機会になる。

将来像

- ・みどりをきっかけに、人と人の交流が身近にあるまち
- ・札幌のみどりを知り、伝え、守り、引き継ぐまち

- 学校など様々な組織と連携したボランティア活動(成果が見えやすい)や、他業種との情報共有(関係企業、連携先)が大事になる。
- 公共機関や企業と、まちが目指す大きなビジョンを描くことが大事ではないか。
- 市民がみどりの現状を知ることが大切(園芸種、野草、在来種、外来種など)。
- 心身の健康のため魅力的なボランティア活動をする。
- 植物が育つ環境、育てる環境が人を育む。
- 多様な楽しみ方が浸透し、交流、コミュニティができていく。
- 花植えと婚活イベントの組み合わせ、小さい頃から土に親しむ親子イベント、初心者向けのガーデニング講座などの充実を。
- 高齢化の進展を考え、介護する人、される人も家の中やベランダでも楽しめる知恵情報があると良い。
- 参加しやすいイベント企画など、効果的な情報発信がされている。
- SNSなど新しい(かつターゲットを決めた)宣伝を行う。

大切だと考える新たな価値

- 心身ともに健康で豊かに暮らせる
- 安全・安心して住むことができる環境になる
- まちなかで身近な交流、コミュニティづくりができる
- 心身の健康のためのボランティア活動